

## SPEAKERS



**大野 英男**  
東北大学総長



**河田 雅圭**  
東北大学大学院生命科学研究科教授



**原口 真** MS&ADインシュアランスグループホールディングス  
サステナビリティ推進室 TNFD専任SVP

プラント・エンジニアリング企業での勤務を経て、1996年にMS & ADグループへ参画。以降、環境・社会・経済の持続可能性への配慮により、事業のサステナビリティ（持続可能性）向上を図る経営を支援する調査や分析、コンサルティングを展開。自然資本を活用した地域のレジリエンス強化と地方創生、SDGs推進の領域にて、数多くのオープン・イノベーション・プロジェクトに携わっている。また、次期生物多様性国家戦略研究会委員、ネイチャーポジティブ経済研究会（環境省）、生物多様性地域戦略改定検討会委員（東京都）など外部委員を多数歴任。



**藤田 香** 東北大学 大学院生命科学研究科教授／日経BP 日経ESGシニアエディター

富山県出身。東京大学理学部物理学科卒。日経BPに入社し、日経エレクトロニクス記者、ナショナルジオグラフィック日本版副編集長、日経エコロジー編集委員、日経ESG経営フォーラムプロデューサーなどを経て、日経ESGシニアエディターを務める。2021年度から東北大学教授を兼任。生物多様性や自然資本、持続可能な調達、地方創生、ビジネスと人権、SDGsなどの分野を専門とする。海の持続可能性をテーマにしたアジア最大級のサステナブル・シーフードの国際シンポジウム「東京サステナブル・シーフード・サミット（TSSS）」の共同プロデューサーを2015年から務める。環境省の中央環境審議会委員、ネイチャーポジティブ経済研究会委員。



**近藤 倫生** 東北大学大学院生命科学研究科教授

京都大学大学院理学研究科卒。日本学術振興会PD、龍谷大学理工学部准教授・教授を経て、2018年より現職。同年、環境DNA学会初代会長に就任。数理・統計モデルなどを利用した解析手法や、海での潜水目視・環境DNA・音響観測などから得られる生態モニタリングデータ、さらにはバクテリアや昆虫を用いた人工生態系実験など多様な道具を武器に、生態学的現象の本質を捉え、その背後に隠された共通原理の理論的解明を目指す。2011年Akira Okubo Prizeを、2013年には文部科学大臣表彰若手科学者賞を受賞。本シンポジウムでは、誰もが貢献・利活用できるオープンな生物多様性観測網「ANEMONE」がもたらす高度生態情報社会の姿を議論する。



**久保田 康裕** 株式会社シンクネイチャー代表取締役／琉球大学理学部教授

北海道大学卒。世界中の森林生態系を巡る長期フィールドワークと、ビッグデータやAIを活用したデータサイエンスを統合し、生物多様性の保全科学を推進するかたわら、研究者チームで株式会社シンクネイチャーを起業。日本の生物多様性地図化プロジェクト「J-BMP」や「ネイチャーリスク・アラート」をリリース。さらに、未来社会のネイチャートランスフォーメーションをゴールにしたNaFureX構想を打ち立てている。本シンポジウムでは、2030年までにネイチャーポジティブを実現するために企業に求められる事業戦略と、今後不可欠となる生物多様性ビッグデータ&テクノロジープラットフォームを紹介する。



**八木 隆史** 積水ハウス株式会社 ESG経営推進本部 環境推進部課長

1996年積水ハウス株式会社入社。事業所にて建物設計、エクステリア設計を担当し、2016年に環境推進部へ異動。同社が2001年から取り組む、生態系を配慮した造園緑化プロジェクトである「5本の樹」計画を推進。日本の豊かな自然を育ててきた「里山」を手本とし、「3本は鳥のために、2本は蝶のために。地域に合わせた日本の在来樹種を」をスローガンとするこの取り組みは、持続可能な社会の実現に向けた貢献が評価され、グッドデザイン賞、地球環境大賞を受賞。そのほか、持続可能な木材調達「フェアウッド調達」など環境関連事業に携わる。一級造園施工管理技士、樹木医。